

研究ノート

大阪府精神科医療機関における HIV 陽性者に対する
診療の実態と研修ニーズ金井 講治¹⁾, 長瀬 亜岐^{1,2)}, 池田 学¹⁾¹⁾ 大阪大学大学院医学系研究科・精神医学教室, ²⁾ 日本生命病院

目的: 大阪府内の HIV 陽性者の精神科診療連携を構築するために, HIV 陽性者の精神科医療機関の診療状況の実態と精神科医向けの研修ニーズを明らかにすることである。

方法: 大阪精神科病院協会・大阪精神科診療所協会の会員施設, 大阪府内の精神科の標榜がある総合病院に所属する精神科医(管理責任者)を対象とし郵送法による自記式アンケート調査を2回実施した。

結果: 1) HIV 陽性者の診療実態については 205 施設から返信が得られた。HIV 陽性者の診療実績のある施設は 58 (診療所 35, 単科病院 12, 総合病院 11) であった。また, HIV 陽性者の診療は「可能」が 85 施設 (42.1%), 「準備が必要」が 30 施設 (14.9%), 「不可能」が 27 施設 (13.4%), 「わからない/未回答」が 60 施設 (30.0%) であった。HIV 研修参加経験は「あり」が 25 施設 (12.4%) と低かったが, 研修会の参加意思は「参加を検討する」が 120 施設 (59.4%) であった。2) 研修ニーズに関しては, 診療所 65 件, 単科病院 20 件, 総合病院 16 件の計 101 件から返信が得られた。全体では「薬物相互作用」(67.3%), 「HIV 治療薬の副作用としての精神症状」(63.4%), ついで「HAND」(59.4%) に関する研修の希望が高いが, 施設形態により研修ニーズに異なることが示唆された。

結語: 精神科診療機関での HIV 陽性者診療は増加しているが, 精神科医のニーズに合わせた研修を行うことでさらなる診療拡大に繋げられる可能性が示唆される。

キーワード: 診療ネットワーク, HIV 陽性者, 精神科医療

日本エイズ学会誌 23: 130-135, 2021

序 文

HIV 感染症は, 抗 HIV 薬開発を中心とした治療の進歩によって慢性疾患と捉えられるまでに治療効果が得られるようになった。かつては HIV 陽性者における精神神経症状として HIV 脳症が重要な位置づけを占めていたが, antiretroviral therapy (ART) により HIV が良好に抑制された状態でも軽症の神経・認知障害をきたす患者の存在が明らかになり, HIV の中枢神経系への影響を包括的に捉えるため, HIV 関連認知障害 (HIV-associated neurocognitive disorder: HAND) が提唱されるようになった¹⁾。さらに, 近年は HIV 陽性者において, 適応障害やうつ病, 不眠症, アルツハイマー型認知症を合併している場合も報告されている²⁾。この背景には疾病告知に伴う抑うつ反応, ステイグマによる生きづらさ, 患者の高齢化など多様な要因が想定されている。本邦における平林らの調査では DSM-IV による精神障害診断に 29.6% が該当したが, 精神科受診率は 5.9% と HIV 感染者にとって何らかの精神科受診への阻害因子の存在が

指摘されており³⁾, HIV 陽性者において精神医学的介入が必要な患者が一定数いることは明らかであるが, HIV 陽性者の精神科受診状況や診療実態は今なお不明確な部分が多い。また, 2011 年の精神科診療施設を対象とした全国調査では, HIV 陽性者の診療経験がある医療機関は 11.9% にすぎず⁴⁾, 精神的な支援方策も確立に向けた精神科医療機関によるネットワークの構築が望まれている。

本研究の目的は, 大阪府内の HIV 陽性者の精神科診療連携を構築するために, 精神科医療機関の HIV 陽性者の診療の実態ならびに精神科医の HIV 研修のニーズを明らかにし, ネットワーク構築に向けた基礎的資料を得ることである。

方 法

研究デザインは郵送法による自記式アンケートによる調査研究である。対象は大阪精神科病院協会の会員施設, 大阪精神科診療所協会の会員施設, ならびに大阪府内の精神科の標榜がある総合病院に所属する精神科医(管理責任者)である。

本研究は 2 回に分けて調査を実施した。1 回目は精神科の受診状況と受け入れ状況について, 2 回目は研修ニーズ

著者連絡先: 金井講治 (〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2-D3 大阪大学大学院医学系研究科・精神医学教室)

2020 年 7 月 6 日受付; 2021 年 2 月 5 日受理

について調査を行った。

1回目のデータ収集期間は2019年1月25日から2月8日、1) HIV陽性者の診療の有無と人数、2) HIV陽性者の診療実施の可能性(可能・不可能・準備が必要・わからない)、3) HIV関連の研修や学会への参加経験(研修受講既往)の有無、4) 今後のHIV関連研修への参加意思(参加を検討する・参加しない)について調査した。

2回目のデータ収集期間は2019年10月1日から10月31日、調査項目は精神科医向けのHIV研修プログラム内容についてのニーズを調査した。ニーズ調査の項目は、先行研究⁴⁾を参考に1) HIV/AIDSに関する知識、2) 薬物治療と相互作用、3) 社会資源、4) 感染対策等とした。

1. 分析方法

診療所・精神科単科病院(以下、単科病院)・総合病院の施設ごとに分類し、各調査項目を単純集計し比較した。

2. 倫理的配慮

本調査における回答については自由意思であり、返送をもって研究承諾を得たこととするをアンケートに明記し、国立大学法人大阪大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会(19165)の承認を得て実施した。

結 果

1. 1回目調査対象の概要

387件(診療所293、単科病院50、総合病院44)に郵送し、205件から返信があった(回収率53.0%)。そのうち施設分類が未記載であった3件を除いた202件を分析対象とした。

内訳は診療所が138施設(47.1%)、単科病院が34施設(68.0%)、総合病院が30施設(68.2%)であった。

1-1. 精神科医療機関でのHIV陽性者の診療状況

2018年の1年間にHIV陽性者の診療実績が「ある」と回答したのは全体で58施設あり、診療所が35施設、単科病院が12施設、総合病院が11施設であった。

HIV陽性者の診療患者数は、診療所では1~5人が33施設、6~10人が2施設であった。単科病院では1~5人が12施設であった。総合病院では、1~5人が9施設で、6~10人が1施設、51人以上が1施設であった。

1-2. HIV陽性者の診療の可否

HIV陽性者の診療について、施設形態別に調査時に診療していた(以下、診療あり群)と診療していない(以下、診療なし群)に分類して、表1に示した。

表1 HIV診療の実施可能性と研修受講状況

HIVの診療の有無	診療所 (n=138)		単科病院 (n=34)	
	あり	なし	あり	なし
HIVの診療の有無	35 (25.4%)	103 (74.6%)	12 (35.3%)	22 (64.7%)
今後の診療実施(選択)				
今後、診療は可能	29 (82.9%)	28 (27.2%)	11 (91.7%)	2 (9.1%)
準備が必要	1 (2.9%)	17 (16.5%)	1 (8.3%)	7 (31.8%)
わからない/未回答	4 (11.4%)	36 (35.0%)	0 (0%)	10 (45.5%)
診療は不可能	1 (2.9%)	22 (21.4%)	0 (0%)	3 (13.6%)
研修受講既往あり	7 (20.0%)	11 (10.7%)	1 (8.3%)	1 (4.5%)
今後の研修参加意思「検討する」	21 (60.0%)	57 (55.3%)	12 (100%)	13 (59.1%)
HIVの診療の有無	総合病院 (n=30)		全体 (n=202)	
	あり	なし	あり	なし
HIVの診療の有無	11 (36.7%)	19 (63.3%)	58 (28.7%)	144 (71.3%)
今後の診療実施(選択)				
今後、診療は可能	9 (81.8%)	6 (31.6%)	49 (84.5%)	36 (25.0%)
準備が必要	0 (0%)	4 (21.1%)	2 (3.4%)	28 (19.4%)
わからない/未回答	2 (18.2%)	8 (42.1%)	6 (10.3%)	54 (37.5%)
診療は不可能	0 (0%)	1 (5.3%)	1 (1.7%)	26 (18.1%)
研修受講既往あり	3 (27.3%)	2 (10.5%)	11 (19.0%)	14 (9.7%)
今後の研修参加意思「検討する」	8 (72.7%)	9 (47.4%)	41 (70.7%)	79 (54.9%)

今後の診療実施可能性について、診療なし群で「準備が必要」と回答したのは、診療所 17 施設 (16.5%)、単科病院 7 施設 (31.8%)、総合病院 4 施設 (21.1%) であった。「わからない/未回答」は、診療所が 36 施設 (35.0%)、単科病院 10 (45.5%)、総合病院 8 施設 (42.1%) であった。

HIV 研修の受講経験は、診療あり群は 19% と低く、診療なし群では 9.7% とさらに低かった。施設別に研修参加をみると、診療所は 18 施設 (20.0%)、単科病院は 2 施設 (8.3%)、総合病院は 5 施設 (27.3%) であった。

今後の HIV 研修会の参加意思については、「参加を検討する」が、診療あり群では診療所が 21 施設 (60.0%)、単科病院 12 施設 (100%)、総合病院 8 施設 (72.7%)、診療なし群では診療所 57 施設 (55.3%)、単科病院 13 施設 (59.1%)、総合病院 9 施設 (47.4%) で、合計 120 施設であった。

1-3. 診療なし群での今後の診療の可能性と HIV 研修への参加状況

診療なし群において今後の HIV 診療実施可能性について「準備が必要」と「わからない/未回答」と回答した施設

の HIV 研修の受講状況について表 2 に示した。「準備が必要」と回答した 28 施設のうち、HIV 研修受講経験のある施設は 1 施設 (3.6%) のみであったが、HIV 研修受講意思で「参加を検討する」は 19 施設 (67.9%) であった。また「わからない/未回答」と回答した 54 施設のうち HIV 研修の受講経験ありは 4 施設 (7.4%) のみで、HIV 研修受講意思で「参加を検討する」は 26 施設 (48.1%) であった。

2. 調査対象の概要 (2 回目調査)

2 回目の調査は、398 件 (診療所 306、単科病院 50、総合病院 42) に郵送し、101 件から返信があった (回収率 25.4%)。内訳は診療所 65 施設 (21.2%)、単科病院 20 施設 (40.0%)、総合病院 16 施設 (38.1%) であった。

2-1. 研修ニーズ

表 3 はそれぞれの医療機関形態別の研修ニーズの高さで背景の色を変えた。50~69% を薄いグレー色、70~89% をグレー色、90% 以上を黒で示した。

研修ニーズについて 18 項目を調査した結果、診療所・単科病院・総合病院の全体をみると 18 項目中 8 項目で 50%

表 2 HIV 診療未実施の施設における今後の診療の可能性と HIV 研修の実態

診療の可能性	診療所 (n=53)		単科病院 (n=17)	
	準備が必要	わからない/未回答	準備が必要	わからない/未回答
	17 (32.1%)	36 (67.9%)	7 (41.2%)	10 (58.8%)
HIV 研修受講既往				
あり	1 (5.9%)	3 (8.3%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)
なし	15 (88.2%)	32 (88.9%)	6 (85.7%)	9 (90.0%)
未回答	1 (5.9%)	1 (2.8%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)
HIV 研修参加意思				
検討する	11 (64.7%)	19 (52.8%)	5 (71.4%)	6 (60.0%)
希望なし	5 (29.4%)	15 (41.7%)	1 (14.3%)	3 (30.0%)
未回答	1 (5.9%)	2 (5.6%)	1 (14.3%)	1 (10.0%)
診療の可能性	総合病院 (n=12)		全体 (n=82)	
	準備が必要	わからない/未回答	準備が必要	わからない/未回答
	4 (33.3%)	8 (66.7%)	28 (34.1%)	54 (65.9%)
HIV 研修受講既往				
あり	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.6%)	4 (7.4%)
なし	4 (100%)	7 (87.5%)	25 (89.3%)	48 (88.9%)
未回答	0 (0.0%)	1 (12.5%)	2 (7.1%)	2 (3.7%)
HIV 研修参加意思				
検討する	3 (75.0%)	1 (12.5%)	19 (67.9%)	26 (48.1%)
希望なし	1 (25.0%)	5 (62.5%)	7 (25.0%)	23 (42.6%)
未回答	1 (25.0%)	2 (25.0%)	3 (10.7%)	5 (9.3%)

表 3 医療機関形態別の HIV 研修ニーズ (複数回答)

	診療所 n = 65	単科病院 n = 20	総合病院 n = 16	全体 n = 101
HIV/AIDS に関する診療知識				
治療	25 (38.5)	12 (60.0)	9 (56.3)	46 (45.5)
問診の取り方	17 (26.2)	11 (55.0)	6 (37.5)	34 (33.7)
経過・予後・疫学	29 (44.6)	13 (65.0)	9 (56.3)	51 (50.5)
告知の方法	22 (33.8)	12 (60.0)	4 (25.0)	38 (37.6)
HIV 脳症	32 (49.2)	13 (65.0)	10 (62.5)	55 (54.5)
エイズ関連神経認知障害 (HAND)	33 (50.8)	16 (80.0)	11 (68.8)	60 (59.4)
画像所見のみかた	17 (26.2)	10 (50.0)	6 (37.5)	33 (32.7)
中枢神経病変のみかた	15 (23.1)	9 (45.0)	7 (43.8)	31 (30.7)
薬物治療				
HIV 感染症治療薬における最新知識	30 (46.2)	14 (70.0)	7 (43.8)	51 (50.5)
HIV 治療薬と向精神薬との薬物相互作用	41 (63.1)	16 (80.0)	11 (68.8)	68 (67.3)
HIV 治療薬の副作用としての精神症状	39 (60.0)	15 (75.0)	10 (62.5)	64 (63.4)
ART (antiretroviral therapy)	10 (15.4)	4 (20.0)	7 (43.8)	21 (20.8)
社会的支援				
緊急入院の連絡先	30 (46.2)	14 (70.0)	9 (56.3)	53 (52.5)
派遣カウンセリング制度	15 (23.1)	7 (35.0)	8 (50.0)	30 (29.7)
利用できる訪問看護や施設	28 (43.1)	13 (65.0)	9 (56.3)	50 (49.5)
HIV 支援団体	17 (17.0)	7 (35.0)	6 (37.5)	30 (29.7)
施設における感染対策・啓発活動				
針刺し事故への対応	31 (47.7)	18 (90.0)	7 (43.8)	56 (55.4)
施設内への教育方法	19 (29.2)	12 (60.0)	7 (43.8)	38 (37.6)

以上と多様な研修ニーズがあることが示された。特に「薬物相互作用」(67.3%)、「HIV 治療薬の副作用としての精神症状」(63.4%)、ついで「HAND」(59.4%)のニーズが高かった。

医療機関形態別にみると、診療所で 50% 以上のニーズがあったのは 18 項目中 3 項目で、特に 60% 以上のニーズがあったのは、「薬物相互作用」(63.1%)、「HIV 治療薬の副作用としての精神症状」(60.0%) など薬物治療に関することが多かった。

単科病院において 50% 以上のニーズがあったのは 18 項目中 14 項目と多く、包括的なニーズがうかがわれた。社会的支援・連携に関する「緊急入院の連絡先」(70.0%) や「エイズ関連神経認知障害 (HAND)」(80.0%) が高く、特に「針刺し事故への対応」(90.0%) ときわめて高かった。

総合病院において 50% 以上のニーズがあったのは 18 項目中 9 項目で、HIV/AIDS に関する診療知識・薬物治療・社会的支援等包括的なニーズがうかがわれ、診療所や単科病院よりも「派遣カウンセリング制度」が 50.0% と高かったが、施設における感染対策・啓発活動に対するニーズは

50% 未満であった。

考 察

1. HIV 陽性者の精神科受診状況と受け入れ体制

大阪府には現在、精神科医療を提供する診療所が約 450 施設、病院が約 100 施設あり、今回の調査でそのすべての施設を対象とすることは困難であったが、大阪精神科病院協会、大阪府精神科診療所協会の協力もあり、387 施設に郵送することができた。返信のあった 205 件のうち、本調査において実際に HIV 陽性者を診療している精神科医療機関は 58 施設あり、診療可能と回答しているのは 85 施設であった。また、HIV 陽性者を 50 人以上診療している施設が 1 施設あり、エイズ治療拠点病院であると推察されるが、精神科領域では少なくとも地域の診療所や単科病院でも広く診療が行われていることが示唆された。一方で、大阪府における HIV 陽性者数は 2019 年の新規報告では 140 名、累計は 3,694 名にのぼる⁵⁾。このうちの一定の割合で精神科受診のニーズが想定されることから、診療可能な精神科医療機関の拡充が望まれる。

また、HIV 診療の有無にかかわらず HIV 研修会への参加意思について半数以上あり、精神科医療機関において HIV に関して知識を得たいというニーズが示唆された。本調査で診療が「不可能」と答えた施設は 27 施設にとどまっており、「準備が必要」「わからない」と回答した施設において大半が HIV 研修未受講であったが、約 90% が研修参加希望であり、HIV に対する研修ニーズの高さがうかがえる。HIV 陽性者の精神科医療機関の拡充に向けては、HIV 研修を中心とした啓発活動等によって、今後診療可能な医療機関が増加する可能性が期待できると考える。

2. HIV 研修の内容のニーズ

1 回目の調査結果から、精神科医療機関においても近年の HIV に関する知見に対する継続的な啓発教育の機会を求めている可能性が示唆された一方で、HIV 研修の参加経験が「ある」と回答した精神科医療機関は 12.4% にとどまっていた。また、本調査では 1 カ所の総合病院で多数の患者を抱えており、地域の精神科医療機関への分散が必要な状況であった。しかし、診療所・単科病院・総合病院といった医療機関の形態によって、身体症状ならびに精神症状の重症化において診療役割が異なる。そこで、医療機関形態別の研修ニーズに合わせた教育支援を行うことで更なる医療機関施設の拡大につながる可能性を検討した。

研修内容のニーズとして、診療所・単科病院・総合病院いずれにおいても、診療に関する知識として「HAND」、薬物治療に関する内容として「抗 HIV 薬と向精神薬の薬物相互作用」、「HIV 治療薬の副作用としての精神症状」において半数以上の希望があり、これらの領域において特に関心が高いことが明らかになった。

一方で、医療機関形態別にみると、研修ニーズが異なる傾向が示唆された。診療所では薬物療法に対するニーズが高く、その理由として今日の精神疾患の外来治療として向精神薬による薬物療法が大きな位置づけを占めており、HIV 陽性者を診察する際の治療選択を検討する場合に「抗 HIV 薬と向精神薬の薬物相互作用に対する知識」や、「HIV 治療薬の副作用としての精神症状」に関する知識が必要とされている可能性が考えられる。それに対して、単科病院では、全般的な研修ニーズがあることが示唆された。特に針刺し事故における対応についての研修ニーズは、単科病院で 90% と特に高かった。この背景として単科病院においては採血の機会が診療所に比べて多いにもかかわらず、総合病院であれば可能なインフェクションコントロールチーム体制や感染管理認定看護師の配置といった教育・管理の整備が十分に行えない状況も予測され、自施設内での HIV に対する感染への教育体制の整備が不十分である可能性が示唆された。また、総合病院では、逆に針刺し事故に対する研修ニーズは半数に満たなかった一方で、「HIV/

AIDS に関する診療知識」「薬物治療」「社会的支援」に関する内容全般に対して、研修ニーズが半数以上であった。この背景には、総合病院ですでに感染対策に対する体制は整備されており、総合病院では他科とのリエゾンコンサルテーションの中で、精神科医においてもさまざまな「HIV/AIDS に関する診療知識」や「薬物治療」に関する知識が求められていることが示唆された。HIV 陽性者も通常の精神科診療患者と同様に精神症状やライフステージに応じて、精神科病棟での入院加療、訪問看護などの在宅支援、施設入所などの福祉支援が必要になる。多くの総合病院においては、メディカルソーシャルワーカーが配置されており、社会的支援の連携先として期待されていること、その一方でほとんどの総合病院には精神科病床がなく、緊急入院が必要な場合の連絡先に関する情報が求められていることが示唆された。

本研究の限界は、HIV 診療実施の有無別に研修ニーズを調査できておらず、今後は実際に診療をしている精神科医療機関が抱える課題について情報の共有を進めていくことで、精神科医療機関のネットワーク構築につながれると考える。

日々 HIV 治療が進歩していること、それに伴い患者の高齢化への対応が必要になることから、HIV に対する医学的知識にとどまらない精神科医療機関の病診連携やさまざまな地域資源との連携体制、院内の体制整備が構築されるための研修が精神科医療機関から望まれていることが示唆された。また、ニーズに即した研修を行うことで精神科医療機関における HIV の知識の向上、ひいては HIV 陽性者の精神疾患医療体制と連携体制の構築へと繋がること期待される。

謝辞

本調査にご助言ならびにご協力をいただきました独立行政法人国立病院機構大阪医療センター 廣常秀人先生、安尾利彦先生に御礼申し上げます。またアンケート調査にご協力いただきました大阪精神科病院協会ならびに前会長の河崎建人先生、大阪精神科診療所協会ならびに会長の堤俊仁先生に深謝申し上げます。本研究は厚生労働科学研究費エイズ対策 HIV 陽性者に対する精神・心理的支援方策および連携体制構築に資する研究 (H30-エイズ一般-007) (研究代表者：山田富秋) の助成を受けて実施しました。また、第 33 回日本エイズ学会学術集会で発表した内容に加筆したものです。

利益相反：開示すべき利益相反はない。

文 献

- 1) Antinori A, Arendt G, Becker JT, Brew BJ, Byrd DA, Cherner M, Clifford DB, Cinque P, Epstein LG, Goodkin K, Gisslen M, Grant I, Heaton RK, Joseph J, Marder K, Marra CM, McArthur JC, Nunn M, Price RW, Pulliam L, Robertson KR, Sacktor N, Valcour V, Wojna VE : Updated research nosology for HIV-associated neurocognitive disorders. *Neurology* 69 : 1789-1799, 2007.
- 2) 渡邊愛祈, 西島健, 高橋卓巳, 小松賢亮, 菊池嘉, 今井公文, 岡慎一: 抗 HIV 療法が確立した時代の HIV 定期通院患者の精神疾患有病率とその特徴. *日本エイズ学会誌* 20 : 47-52, 2018.
- 3) 平林直次, 赤穂理絵, 笠原敏彦, 木曾智子: HIV 感染者に認められる精神障害. *日本エイズ学会誌* 3 : 99-104, 2001.
- 4) 廣常秀人, 梅本愛子, 吉田哲彦, 疇地道代, 山路國弘, 安尾利彦, 大谷ありさ, 倉谷昂志, 仲倉高広, 盛田眞子, 藤本恵里, 宮本哲雄, 西川歩美: 抗 HIV 療法に伴う心理的負担, および精神医学的介入の必要性に関する研究. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業報告書「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」: 105-115, 2012.
- 5) 大阪府健康医療部保健医療室: 大阪府におけるエイズ発生動向-令和元年(2019年)1月1日~12月31日. <http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/6327/00000000/R01doukou.pdf> (2021年1月6日アクセス)

Medical Network of Psychiatric Institutions Needed to Support HIV-Positive Patients in Osaka

Koji KANAI¹⁾, Aki NAGASE^{1,2)} and Manabu IKEDA¹⁾

¹⁾ Department of Psychiatry, Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾ Nippon Life Hospital

Objective : The purpose of this study was to establish a psychiatric partnership for the treatment of HIV-positive patients in Osaka. We investigated whether psychiatric institutions were treating HIV-positive people and what kind of training session psychiatrists wanted to take.

Method : We conducted surveys by mail method twice for psychiatrists who belong to the Osaka Psychiatric Hospitals Association, Osaka Association of Psychiatric Clinics member institutions, and psychiatric department of general hospitals in Osaka Prefecture.

Results : 1) Two hundred five facilities responded to the survey on treatment of HIV-positive patients. Fifty-eight facilities (35 clinics, 12 psychiatric hospitals, and 11 general hospitals) were treating HIV-positive patients. Eighty-five facilities (42.1%) answered that they were ready to treat HIV-positive patients, and thirty facilities (14.9%) answered that they were not ready yet to see the patients, twenty-seven facilities (13.4%) answered that they were "impossible" to treat and sixty facilities (30.0%) answered that "they were not sure/unanswered". The percentage of experience of HIV training was only twenty-five facilities (12.4%). However, one hundred twenty facilities (59.4%) answered they would consider participation in the training. 2) As for the training needs, we received one hundred one replies from 65 clinics, 20 psychiatric hospitals, and 16 general hospitals. From the responses, it was clear that there was a high demand for training on "drug interactions" (67.3%), "psychiatric symptoms as side effects of HIV drugs" (63.4%), and "HAND" (59.4%). In particular, it was suggested that training needs differed depending on the type of facility.

Conclusion : The number of HIV-positive patients treated at psychiatric institutions is increasing, and training tailored to the needs of psychiatrists may lead to further expansion of treatment in more facilities.

Key words : Medical Network, HIV-positive patients, psychiatry medicine